2019 年度　木浦大学校短期研修報告書

193031　M.K.

今回参加させて頂いた韓国木浦大学校短期研修では、語学をはじめ、「文化」と一纏めにするには難しいほど多様な韓国の昔と今を体感できました。

一日目は、研修に参加したメンバーの人たちと初めて顔を合わせた日でもありました。韓国で研修を行う上で心配だったのが、日本人同士ばかりで行動して韓国の人々と交流を深められるかということだったのですが、今振り返れば先輩後輩関係なくコミュニケーションをとることによって、何気ない会話から自分の気付かなかった韓国の特徴や日本との違いを知ることにつながったので共に過ごせた時間は決して無駄ではなかったと感じました。また、日本人同士でも違う価値観・違う知識量でこの研修に臨んでいたため、情報交換や教え合いが後にとても役立ちました。夜に集まってくれたチューターさん方も、日本語が堪能で、積極的にコミュニケーションを図ってくださったので、語学に対する不安もすぐに薄れていきました。

二日目、朝ごはんを食べに行った食堂韓で国の食文化を感じることができました。日本の食事の基本の形式は一汁三菜ですが、韓国はメインがスープであることも少なくないうえ、副菜が多く、キムチやトウガラシなどの辛みのあるものは必須で何より野菜を多く摂取できるメニューがほとんどでした。単に「辛い」のイメージだけ持っていた私にとっては新鮮な光景でした。全羅南道の庁舎訪問では、全羅南道の説明と提携の活動等をお話ししていただき、VR 体験をしました。お忙しい中温かく迎えて頂いて、名物の梅のお茶をいただきながら有意義な時間を過ごすことができ

ました。高知県との提携をとても大切にしてくれていて、テレビで頻繁に報道される日韓関係の危機はあくまで政治関係のバランスの崩れによる産物であり、それを受けて「韓国は危ない」と決めつけるのは安直な判断だと考えました。庁舎の展望台に上ると、街の様子が一望できました。垣根のない街、立ち並ぶ集合住宅、伝統的な建物の面影も残る風景が今の全羅南道の在り方を示しているように感じました。次に向かった先のドラッグストアやショッピングモール、コンビニでは１＋１などのおまけの仕組みが多くあり、日本とは少し違う消費者の注意の惹き方の工夫があって面白いと感じました。

三日目の韓国語の授業は、英語時々韓国語で説明のあと、発音練習や音の組み合わせの仕組みを学び、グループで分からない発音や単語を教えてもらうという形で進んでいきました。先生が韓国語で説明した時もチューターさんが日本語で訳してくれたので不安はありませんでした。木浦大学校の皆さんと同じグループの先輩方のおかげで楽しんで韓国語を学べる贅沢な環境が整っていました。出前の食事やチヂミ、昆虫食など、一般的な食文化の形と味も経験できた日でした。食事は大人数で囲むものが多く、食後すぐにカフェに行くなど、人との時間を大切にする食事の仕方だと考えました。

四日目は霊岩農業博物館で韓服体験とトッカルビ作りを体験したあと、紙の工芸とオランダのお菓子の料理を体験しました。建物自体も伝統的な造りだったので、より臨場感あふれる体験ができました。農業は日本の農家と同じような暮らしがうかがえたので当時の状況が想像に難くありませんでした。元々料理やモノ作りに興味がある私にとって、この日体験したことは自分のアイディアの引き出しが増えるきっかけにもなりました。

五日目は韓国語と韓国文化特講の授業でした。韓国語も単語を早く発音する練習や自己紹介のフレーズなど内容が発展していき、少しでも自分の成長が感じられたので自信をもって韓国語の学習を続けようと思える授業でした。文化特講では政治や教育、現代文化の実態をお話ししていただきました。韓国語の勉強に使えそうだなと思うトピックから日本の教育の日本が昔韓国にしたことをあまり表立って教えないこと等改めるべきところまで、講義の中で細かな気付きが得られました。

六日目は共生園を訪問しました。旧舎は田内千鶴子さんの記念館となり、新しい建物で子供たちがのびのびと生活していました。そこで暮らす人々は皆千鶴子さんを尊敬し、愛していました。日本人の記念植樹が数多くあって、この場所の存在は日韓の友

情を途絶えさせない希望になっているのだと感じました。ユダル山に登った時、木浦が一望できました。海に面したその街の様子は現代の建物や交通機関がありつつも日本との戦争の歴史の影ものこっていて、まさに木浦の昔と今を融合した姿を見せていました。

七日目は光州へ向かいました。木浦より中心寄りの光州は都会的な町でした。現代の建物や音楽、アートや社会風刺芸術などの多様なアジア文化を展示している博物館で様々な文化の表現方法とそれが訴えるものを見ました。不安定に揺れる社会に対する不安と批判を表現するものが多く、どの国も同じ課題を抱える部分があるのだと感じました。また、たくさんのお店が立ち並ぶ長い商店街が光州にはあって、日本にないようなお店もあり、やっぱり違う国なのだということも感じました。最終日は早朝の出発のため、夜に韓国の方々と別れを惜しみました。

この七日間と短い期間の中で、行く前とは比べ物にならないほどの情報と新しい考え方、物事を見る力を確実につけ、目標であった「自分の目で韓国の実態を見る」ことを達成しました。もしこの研修に参加しなければ、メディアの言うことを鵜呑みにしたまま韓国の魅力を知ることはなかったと思います。今では韓国が恋しくなるどころか、本格的に韓国語を習得して、もっと韓国のことを知るために留学をしたいと考えるようになりました。日本のメンバーも、年も学科も違う人達だったからこそ沢山の経験の中でいろんな考えを共有して刺激し合えたと考えています。旅行とはまた違う体験をできて、「研修」と呼べる有意義な学びがありました。韓国のチューターさん達とも連絡を取って、韓国語を教えてもらっています。こうして、日本と韓国のつながりは途絶えず今でも続いているのだと感じました。

今回の韓国・木浦大学校短期研修に参加させていただいて、日本しか知らなかった狭い視野が一気に広がりました。このような経験ができるこの研修がこれからもずっと続くことを願っています。一緒に韓国へ向かう準備をしてくださった国際交流課の方々と引率の橋尾先生、サポートしていただいた韓国の方々と参加したメンバーの皆さんに感謝しています。ありがとうございました。

2019 年度木浦大学校短期研修報告書

183008　M.I.

1）活動概要

・全羅南道庁舎訪問

全羅南道は５つの市と１７つの群でできている。その全羅南道を見渡せるくらいに高く建てられている全羅南道庁舎に訪問した。庁舎の庭には、高知県知事である尾崎正直が植えた梅の木が立っていた。その梅の木は縁起のいいもので得あると言われていたため、全員で写真撮影した。庁長との対談では、日本語通訳の方を交えながら様々なことを話した。その際に出してくれた梅の茶がとてもおいしく、梅の茶が有名だということも知った。庁長との対談が終わってから、展望台へと昇り、全羅南道の景色を見渡した。そこで、木浦の「三ない」活動についても知った。木浦市には、「電柱がない」「看板がない」「垣根がない」の三つの「ない」が存在するのだ。これは、高知城の周りにある建物や看板の規制にも似ているなと思った。そうやって、街並みを規制して、その土地ならではの、きれいに見せる工夫がなされているのだと学んだ。

・韓国語講義

韓国語講義をしてくださったオ先生は、日本語を話すことが得意ではないため、英語で韓国語についての説明をしてくれた。講義する時間が少ししかなかったので、あいさつやちょっとした会話などを学んだ。私は、高校生の時に韓国語を習っていたので、改めて復習することができ、英語で説明されても理解ができた。しかし、やはり日本語より韓国語は母音が 10 個と多いため、普段 5 つの母音で発音している私たち日本語話者にとっては、どうやって発音の違いを区別するのか分からないところがたくさんあった。そういう場合は、グループの中に一人いる韓国人のチューターにたくさん頼った。また、自分で韓国ドラマを見ていて、今まで不思議に思っていたことを授業の合間に聞いたりして、学びを深めていった。

・霊岩農業博物館（韓服体験、トクカルビ料理体験）

霊岩農業博物館で韓服体験とトクカルビ料理体験を実際に体験した。博物館には、たくさんの韓国の伝統的衣装が展示されており、どれでも試着して写真を撮ることができた。展示されていた衣装は、チマチョゴリ（女性韓服）やパジチョゴリ（男性韓服）、セクトンチョゴリ（子供韓服）、キセンボッ（妓女の外出服）、妓生のかつら、両班の帽子、警察官の服などがあった。また、昔は王族の婚礼で使われ、現代では一般市民の婚礼衣装として使われているファロッ（韓国婚礼衣装）や、頭にのせる飾りであるファガン（花冠）、国王が表彰である大礼服を祭礼服として着用した冕服(ミョンボク)、そして被り物の冕服冠(ミョンリュウカン)など様々な伝統的衣装があった。やはり、韓国の伝統衣装は色鮮やかで、柔らかな曲線が描かれているという工夫がなされていた。日本の伝統衣装である着物より、チマチョゴリやパジチョゴリは着やすく、動きやすかった。しかし、婚礼衣装を試着したときは、頭にのせた被り物が重く、少し不安定に感じ

た。日本と韓国の伝統婚礼衣装にはいろいろな違いがあり、同じアジアの国同士でも、それぞれの個性があっていいと思った。今後、どの国とどの国の婚礼衣装が似ているのか、日本と韓国以外の国とも比べて、その違いを知りたいと思った。次に、トクカルビという韓国のハンバーグを実際に作って試食した。トクカルビは昔、王様が一般市民のように骨のついた肉を食べることを下品に感じ、食べやすくされたものであると案内人の方が言っていた。トクカルビを作るとき、肉だけでなくコーンやクルミ、ニンジン、柔らかくするためにパイナップルを混ぜ、丸い形に仕上げた。片手から片手へ投げるようにすることを最低 40 回しないとおいしくならないという。そのお肉を焼く前に一回蒸してから、フライパンを使って仕上げた。自分で作ったトクカルビだったのでより一層おいしく食べることができた。

・韓紙工芸・お菓子作り（喜文化創作空間）

まず初めに、韓紙を使って手鏡をみんなで制作した。韓紙を重ねて作ったお花の模様がとてもきれいな、世界に一つしかない手鏡を一人一人作ることができた。次に、韓国のおこしとオランダ風のおこしを作った。韓国のおこしは、定規のような道具を使って形づくっていた。一方、オランダ風のおこしは、粒が大きいものを使い、小さなカップで形づくっていた。二種類のおこしを作ることで双方の違いを見つけることができた。

・韓国文化特別講義

韓国文化特別講義では、ジョン・ヨンウク先生による「韓国の大衆文化」について学んだ。1945 年以後から独立するために、韓国における日本の大衆文化の禁止が行われ、国民形成企画（国のアイデンティティー形成）が実施された。この時から日本の文化を取り除く運動が起きた。しかし、アメリカの文化をうまく取り入れた日本をお手本に、韓国もアメリカ化していこうとしたのである。そのため、日本の文化を取り締まっていたことを年々項目ごとに解除していき、1998 年から今まで日本大衆文化の開放がなされてきた。現在韓国で禁止している日本大衆文化は、韓国地上波テレビでの日本ドラマ放送のみだという。また、日韓関係は今（2019 年現在）のように長年悪い状態だったわけではなく、2002 年のワールドカップを共催したときはお互いに理解し合い、交流も深め、良い状態だった。しかし、2 年後の 2010 年には再び日韓関係が悪くなってしまった。このように、何年かの周期で日韓関係には変化が訪れてしまうのかもしれない。ジョン先生は、ウェブトゥーンについても詳しく説明してくれた。現代の韓国では、ウェブトゥーンを使うことで、いろいろな訴えを表現している。共感を得るために絵の完成度は低いが、親しみを感じることができ、多くの人が愛読しているという。そのため、韓国のウェブトゥーンは漫画が持っていた大衆文化の性質と若者に対する親しみをオンライン環境に持ち込んで主流文化になったのだ。

・木浦共生園訪問

木浦共生園はすごく山の近くに建てられているため、田内千鶴子さんは岩が転がり落ちてこないかと心配していたという。共生園の中に入ってみると、たくさんの子供た

ちの声が聞こえてきた。階段から勢いよく降りてきた子供たちは元気いっぱいだった。私たちが日本からお土産に持ってきたお菓子を配ろうとすると、一斉に来たので戸惑いながらも全員にお菓子を渡すことができた。共生園の子供たちは、毎年高知県に訪問するために日本語を勉強していたので、「ありがとう」や、最後にお別れする際も「さよなら～」と日本語で挨拶してくれた。次に、田内千鶴子さんの記念館へ足を運んだ。そこには、田内千鶴子さんに関する展示物や歴史が集められていた。滞在時間は短かったが、田内千鶴子さんに関するちょっとした映像も見れたので、新しい知識も増やすことができた。木浦共生園は、田内千鶴子さんがいなくても、しっかりと受け継がれ、幼児から大学生の子供たちを支えているんだと思った。

・光州地域（国立アジア文化殿堂）

国立アジア文化殿堂ではたくさんの展示物を見たが、私が一番印象に残っているのは、建物に施された工夫についてだ。文化殿堂は、昔に建てられた建物を目立たせるため、地価の建物として新しく建てられた。しかし、中に入ってみると地下３階にいると感じないくらい開放感が溢れ、建物の２階や３階にいるようだった。そう感じるような工夫として、天窓を合計７０個活用し、室内が暗くならないよう光が入ってくるようにしている。また、湿気を吸わせるために竹を設置し、地下の空気をきれいにしている。こういった工夫を少しでも活用すると、多くの人々が快適に過ごすことができるんだと思った。

２）研修での学び・気づき

この研修に行く前は、日に日に悪くなる日韓関係のおかげで、不安が少しあった。しかし、そんな中でもチューターのみんなは優しく、分かりやすいようにすべて日本語で話してくれた。そして、韓国文化特別講義でお世話になったジョン先生は、「こんなに日韓関係が悪い時にこそ、日本の学生と韓国の学生が交流することが大事だ」と語っていた。私はこの言葉を聞いて、その通りだと感じたし、国籍が違ってもみんな考えていることは、実は一緒なのではないかと考えた。政治的関係が悪くても、私たちはそのことを知りながらも逃げてはならず、偏見をなくさなければならない。そして、こうした交流をするときに、必要とされるのは、やはり自国の文化知識である。他の国の文化を知るためには、自国の文化を知らないと違いを見つけることもできないし、相手にも説明することができない。だから、もっと自分から日本の文化を調べて説明できるよう勉強しておくことが大切だと考えた。これからいろいろな国の人々と交流する機会が多くなると思うので、大学生活の中で自国文化の知識を蓄えていこうと考える。

MNU

令和１年度　木浦大学校短期研修報告書

183102　R.F.

１　活動概要

今回の短期研修は８月22日から８月29日までの８日間の間､韓国の木浦大学校に行き、文化の違いや歴史について学んだ。この研修では、全羅南道庁舎の訪問や韓服体験やトッカルビ料理体験、共生園への訪問など様々な場所に訪問し、韓国の文化を学んだり体験することができた。また、韓国語の授業も行った。チューターの方が授業の間ついてくれ、分からないところはすぐに質問ができ、教えてくださる先生もとても丁寧で分かりやすく、少しは韓国語を理解できるようになった。

２　研修での学び、気づき

初日　初日は一日中、飛行機や電車での移動だった。飛行機は、日本とあまり変わらず、CAさんもおそらく韓国の方だったが、日本人には日本語で対応してくれた。空港を出た後は地下鉄に乗ったが、切符がカード型で驚いた。また、外国から来た人のために、切符を売る機会が英語や日本語などの言語に対応していた。駅の中は、段差が少なく、エレベーターも至る所にあり、杖をついている方や、車いすの方も何人か見た。車いすの方のなかには補助の人なしで駅の中を移動している方もおり、バリアフリー化が進んでいるんだなと感じた。日本ではあまり駅の中や電車の中などで車いすに乗っている方は見かけることが少ないので、日本も韓国のようにどんな方でも利用しやすい駅になればいいなと感じた。木浦駅につき、木浦大学まではミニバスで移動した。車やバスは日本とは違い左ハンドルで右側通行だった。運転の速度が速かったり、自由に迂回や駐車をしているのを見て、運転の法律なども日本とは違うところがたくさんあるんだなと感じた。

2日目　韓国語の授業をやったあと、全羅南道庁舎を訪問した。庁舎の方からお話を聞いたり、最上階の展望台から風景を見たりした。この町には広告がない、電柱がない、垣根がないと３つのないがあると教えていただいたり、もともと島だった場所が埋め立てられて山になったということなどを教えていただいた。

3日目　一日中韓国語の授業を受けた。分からないところもチューターの方が優しく丁寧に教えてくださった。最後には、韓国語で買い物をするときに使える言葉などを実戦形式で発表したり、韓国語で研修メンバーやチューターの方にメッセージを書いたりした。

また、木浦大学校の中を歩いた。木浦大学校はとても広く、大学の中でも車や自転車を使って行き来している人もいた。英語の部屋や、図書館、トレーニングルームなど施設や設備なども充実しており、勉強しやすい環境だと感じた。チューターの方に

韓国では勉強がなによりも大事らしく、サークルなどは一応存在するものの、あまり数は多くなく、入る人も少ないということを教えていただいた。

4日目　午前中は霊岩農業博物館へ行き、韓服の体験や、トッカルビを作り、韓国の歴史や文化を学んだ。韓服には様々な種類があり、普通の人が着るものや、結婚式に着るもの、王

族が着るものなどがあった。トッカルビ体験は、博物館の方に作り方を教えてもらい、研修のメンバーとチューターの方とで作った。見た目はハンバーグに似ていたが、味や中に入れる食材などは韓国らしさがあった。トッカルビは昔王族が食べていた料理ということを教えていただいた。博物館には昔の農業で使われていた民具などが展示されており、日本で使われていた物と似ているものもたくさんあった。
午後は韓紙工芸に行き、韓国の紙を使った手鏡や、伝統的なお菓子を作った。手鏡は韓国の伝統的な紙や、伝統的な模様を入れて作った。お菓子は日本でいうポン菓子のような見た目でとても甘かった。
5 日目　共生園と「ろせきほ」と呼ばれる有名な石があるところに行った。「ろせきほ」はとても大きな石で、戦争のときに石に藁を積み、お米がたくさんあるように見せかけていた。少し山を登ると、町を一望できるところがあった。そこからはたくさんの高層マンションが見えた。今木浦では高層マンションがどんどん建設されており、人口は変わっていないのに、マンションだけが増えていっている。共生園では田内千鶴子さんのお話や、共生園の歩みを学んだ。また、共生園の子どもたちに会い、日本のお菓子を手渡した。
6 日目　午前中は韓国文化の特別講義を受けた。韓国が日本の文化を排除した背景や、そこからどのように日韓の関係が回復していったかなどのお話を聞いた。日本の大衆文化の解放が 1998 年と意外と最近だったことに驚いた。他に韓国の漫画の特徴などのお話を聞いた。韓国ではデジタルコミックが主流となっており、コミックのレンタルショップなどはなく、皆パソコンやスマートフォンを使って漫画を読む。韓国の漫画は社会情勢などを描いているものが多く、コマ割りなどが日記形式になっている。
午後はフィールドワークとして街中に出て買い物をした。実際に授業で習った言葉を使って店員さんと会話したりできた。分からないところはチューターの方が助けてくれ、スムーズに買い物ができた。
7 日目　光州地域に行き、午前中は建築物の博物館に行った。そこは、韓国の建築物だけでなく、世界各国の建築物の情報などが展示されていた。中には建築物関係の本などもたくさん並んでおり、全て無料で閲覧できる。そのあと動物と触れ合うことができる施設を訪れた。犬や猫、ハムスターなど日本でもお馴染みの動物のほかに、ミーアキャットやフェネックなどの動物を見たり触れたりすることができた。午後からは光州地域の商店が並んでいるところに行き、買い物をしたり VR 体験をした。VR 体験は本当にアトラクションに乗っている感覚を味わえるものや、新感覚の音楽ゲームなどがあり、近代的な娯楽施設だと感じた。
３その他
私はこの研修が初めての海外であり、韓国語もほとんど話せないため、最初はとても不安があった。しかし、木浦大学校のチューターの方々はとても日本語が上手で、私たちが日本語で話している内容もほとんど理解してくださったため、言語面での不安は一切感じなかった。また、この時期は日韓関係も悪くなり始めていたため、研修に参加する前はいろんな人から心配され、私自身も不安があったが、チューターの方や現地の方はとても優しくしてく

ださり、人との交流に国同士の争いは関係ないんだと感じた。この研修を通して、日本の文化とは違うものを学べ、韓国に対してとても興味が湧いた。また、韓国語も少しはわかるようになったため、これから少しずつ勉強していきたい。

韓国料理キンパ

VR 体験中

２０１９年度　木浦大学校短期研修報告書

196031　M.H.

報告書の内容：

１）活動概要

8/22(木)　日本(高知)→韓国(木浦)

8/23(金)　韓国語授業、全羅南道市庁訪問

8/24(土)　韓国語授業、木浦大学校内の案内

8/25(日)　霊岩農業博物館(韓服体験、トッカルビ料理体験)、韓紙工芸、オランダ(お菓子)作り体験

8/26(月)　木浦の歴史と文化(木浦ユダル山、近代歴史博物館)、共生園訪問

8/27(火)　韓国の歴史の文化特講(韓国と日本の政治と文化)、バラの道で買い物

8/28(水)　光州(国立アジア文化殿堂、ソンジョン駅市場文化体験)

8/29(木)　韓国(木浦)→日本(高知)

２）研修での学び・気づき

今、韓国と日本の関係は良好ではないですが韓国の木浦では私たち高知県立大学の生徒を初日からとても歓迎し迎え入れてくれ、研修の間とても過ごしやすかったです。

木浦市庁に行った際には、高知県との姉妹交流記念に植えられた梅の木を見ました。市長さんと一緒に食事をする機会もあり、高知県との交流をもっと深めていきたいと言っていました。

韓国語の授業は韓国人を含めてグループを作り、教えてもらいながら授業を受けました。韓国語は文字によって発音が難しかったです。ハングル文字は日本のひらがなと違って、似た文字が多く、少し違うだけで読み方も違ってくるので難しかったです。

霊岩農業博物館に行き韓服体験、トッカルビ料理体験をしました。韓国には日本と同じように場面に応じた服がたくさんありました。その中でも韓国で歴史的なチマチョゴリを着させてもらいました。日本の着物とは違って簡単に着やすく、脱ぎやすかったです。自分の好きな色をカスタマイズして何度も着させてもらいました。トッカルビ料理体験では、トッカルビは日本のハンバーグの様なものでしたが、卵やパン粉のつなぎは使わず形を作りました。そして、そのまま焼くのではなく蒸してから焼きました。食感はハンバーグと同じでしたが、味は何もつけなくてもしっかり味がついていました。とても美味しかったです。

韓紙体験では、韓国で女の人がお嫁に行くときに持っていく鏡を作りました。自然でできたノリで紙を張って作り、完成させました。お菓子作り体験では、日本の雷おこしの様なお菓子と伝統的なお菓子、オランダを作りました。二つとも、とても美味しく手が止まらなかったです。

韓国の歴史と文化を知る際には木浦で一番高いユダル山に登り木浦の街を見ました。高知とは違い高い建物が並ぶ街もありましたが、高知にも見られる田んぼのような麦畑が広がるところもありました。牛砲や壁に残った銃弾の後のような昔の名残が残る傷跡がみられました。

共生園を訪れたときには、高知県知事の尾崎正直さんが訪問した記念に植えられた梅の木の前で写真を撮りました。共生園にいる子供たちはとても元気で準備していた日本のお菓子はすぐになくなりなした。子供たちの中には虐待を受けていたり、親がいない子もいたそうですが、そんなことは感じさせないぐらい元気でした。訪問したこちらの方が元気をもらいました。今年、日本に来る予定だった子もいて今回の日韓の問題で日本に来ることがなくなったらしく、泣いていたと言っていました。

韓国の文化特講では韓国でよく使われているネットについて学びました。日本では Google の方が Yahoo よりも使われていると思っていますが、韓国では Yahoo の方が多く使われているそうです。そして、日本のライン漫画のような無料で読める漫画が韓国でも流行っているそうです。幅広い世代から読まれている日本とは違って、韓国では若い世代からしか読まれていないそうです。

木浦にある若い人がよく行くというバラの道へ行き買い物をしました。高知でいう帯屋町のようなところでした。ふわふわのかき氷を食べたり、とても安い服屋さんに連れて行ってもらったりしてとても楽しかったです。

光州へ行き、国立アジア文化殿堂へ行った際には、韓国の建物の特徴や韓国の有名な建物について教えてもらいました。国立アジア文化殿堂は上に高いのではなく、地下に長く建てられていて、地下には湿気を防ぐために日本の竹が植えられていました。韓国のお葬式は写真だけ見ると、日本人はお祭りをしていると勘違いをするような風景でした。アジアの歴史がたくさんあり、私たちには難しい内容のものもありましたが、広島の平和記念公園でなっているサイレンの音を生々しく聞けるブースもありました。韓国の文化殿堂でしたが、日本を近くに感じられるところでした。

光州の街では、建物内の動物園に行ったり、前日と同じくとても安い服屋さんや雑貨屋さん、そしてタピオカ屋さんにも連れて行ってもらいました。光州は前日行っていたバラの道よりもたくさんのお店があり、それに伴って人の数も多かったです。韓国のお店でしたが日本のお菓子や雑貨もあり、身近に感じられました。

研修中に食べさせてもらった韓国料理は日本では食べたことがないくらいとても辛かったですが、どれもとても美味しかったです。韓国料理のチーズダッカルビやチヂミ、サムギョプサル、トッポギなど本場で本場の食べ方で食べれてとてもうれしかったです。

3）その他

感想

今回の韓国研修で初めて外国に行きましたが、日韓の問題がある今だからこそ韓国に行ってよかったなと思いました。今韓国に行くと怖いのかなと思っていましたが、行ってみると木浦大学校のノ先生や学生の人たちはずっとついて案内してくれたり、お店でお金の出し方を困っていると助けてくれたりほんとに優しかったです。

４）研修の写真

MNU
Mokpo National University

井主園

Olivia Lauren

MNU

ULIKE

2019 年度木浦大学短期研修報告書

196018　I.S.

1）活動概要

1 日目：高知龍馬空港から羽田空港、金浦空港経由で木浦大学校に行った。木浦大学校の先生と生徒の方と合流し夕食を一緒にいただいた。その後木浦大学校のゲストハウスで宿泊した。

2 日目：朝食は大学校の横のアーモンド食堂でカルビスープを食べた。午前は韓国語の勉強をした。先生は英語で教えてくださり、韓国語の読み方、ちょっとした単語などを学んだ。お昼は木浦大学校の方々とサムギョプサルを食べた。午後全羅南道の道庁を訪問し、道知事の方と交流をさせていただいた。道庁には高知県と姉妹都市であることを象徴する梅の木が植えられていた。その後、ショッピングモールへ行った。夕食は道知事の方と焼き肉を食べた。

3 日目：朝食は昨日と同じところで干し明太クッパを食べた。この日は 1 日中韓国語の勉強の日だった。ハングルをすらすら読めるようにまでなった。先生や生徒さんが丁寧にわかりやすく教えてくださったおかげで難しさも感じないほど楽しかった。お昼は出前を頼んでくださり、ジャージャー麺とチキンを食べた。その後近くのカフェに連れて行ってくださり、ゆず茶を飲んだ。大学校の案内もしていただいた。大学校内は広く、7 大学もあった。夕食はチヂミを食べた。その後先生と学生の方と一緒に木浦大学校生の息抜き先のカラオケに連れて行ってもらった。

4 日目：朝は同じところでアルパブ（海鮮丼のようなもの）を食べた。午前は霊岩農業博物館に行き、韓服体験、トッカルビ（ハンバーグのようなもの）料理体験をやらせていただいた。日本との歴史の違いを学んだ。午後は別の場所に移動し、韓紙工芸体験、オランダというお菓子作り体験をやらせていただいた。韓紙は日本の和紙と似たような感じだったが、配色の仕方などが日本とは違った。オランダは小麦を揚げたものでポン菓子に似ていた。夕食は各自となったので、韓国のカップ麺を食べ比べた。

5 日目：午前は自由だったのでゆっくり過ごした。お昼は大学校内の食堂で食べた。ビュッフェスタイルだった。午後は木浦の歴史と文化を学ぶためにユダル山へ行った。日本の豊臣秀吉の頃から日本とは関係があり、日本が韓国を植民地にしていた時代のことも学んだ。またその時代の頃に日本人が建てさせた建物なども見た。その後共生園に伺い、田内千鶴子さんについての映像や、千鶴子さんの親族の方からお話を聞かせていただいた。共生園にいる子供たちに日本のお菓子をお土産として渡した。夕食はビュッフェに行った。

6 日目：朝はいつもと同じところで味噌チゲを食べた。午前は韓国の文化についての講義を受けた。先生は日本語で説明してくださった。戦争の時代の話や、日本との関係、今の韓国での文化などを学んだ。昼食は食べずにソルビン（かき氷）を食べた。午後は

学生の方がショッピングに連れて行ってくださった。韓国のお店の雰囲気や売られているものが日本とあまり変わらないと感じた。夕食は大学校の近くでチキンを食べた。その後もう1軒はいり、オデン（さつま揚げのようなもの）を食べた。

7日目：朝は同じところでカルビスープを食べた。その後光州に行き、国立アジア文化殿堂に行きアジアの建物の展示や、アジアで開催された展示会やその国ではやった文化などを見て学んだ。その後光州の町を観光し、動物園に行った。お昼は、焼き肉を食べた。その後自由行動になり、ショッピングをした。学生の方が案内やいろいろなことを教えてくださった。夕食は大学校の近くでチーズラーメンを食べた。

8日目：韓国から金浦空港、羽田空港を経由して高知に戻った。

2）研修での学び・気づき

私は韓国には1度も行ったことがありませんでした。なので韓国の情報はテレビやネットで見るものしか知りませんでした。しかし、この研修で行ったことによってさまざまなことを学ぶことができました。まず1つ目は、韓国の発展のことです。韓国は独立したのが割と最近で、日本より発展し始めるのが遅くれていました。しかし、どこに行っても日本とほとんど変わらないなという印象が強かったです。木浦はそんなに栄えてはいませんが、そのなかにも食堂やレストランなどがあり、日本の田舎と似たような雰囲気です。また空港周辺や光州などは栄えていましたが、日本の東京や大阪などと似たような雰囲気でした。電車や新幹線も似ていて、車内放送では韓国語、英語、中国語、日本語と4か国語も放送していました。このようなことから、韓国は短時間でここまで発展してきたのだなと思いました。2つ目は、食べ物についてです。韓国の食べ物は辛いということは知っていましたが、実際に食べてみるとその辛さにも差があることがわかりました。とても辛いものは本当に辛さしか感じませんでしたが、辛さの中に様々なうま味や素材の味を感じることもできました。その辛さ以外の味を感じることができる料理はとてもおいしいと思いました。日本の料理には韓国の料理に比べて唐辛子を使うものは少ないですが、韓国の料理からヒントを得て日本の料理にアレンジをしていったら新しい料理が生まれるのかもしれないと思いました。3つ目は文化についてです。今日本では韓国ブームになっていて、様々なところで韓国の商品が売られています。それは食べ物だけでなく、化粧品やアイドル、服など本当に様々です。なので私も見たことがあるようなものもたくさん韓国にありました。しかし、それは韓国も同様で、日本の商品もたくさん売られていました。韓国は昔は日本の文化を取り入れることを禁止されていたようですが、その法律が緩和されたことも相まって日本の文化がたくさん入ってきているようでした。実際学生さんが日本の会社の化粧品を使っていて、話を聞いたところ、「日本の化粧品は安いし、かわいいし、いい！」と言っていました。私はその話を聞いたとき、日本も同じことを言っていると思いました。日本人に韓国の商品が人気な理由もおなじだと思います。お互いの文化にはないものがお互いに魅力的なのだなと思いました。4つ目は、言語を学ぶことの大切さを実感しました。海外で人とのコミュニ

ケーションをとるには自国語だけでは話すことが難しいということを感じました。私たちには木浦大学校の日本語専攻の学生さんがついてくださいました。なので、会話をするときは日本語で話しました。しかし、もしその学生さんたちが日本語を話せなかったら、私たちが韓国語をはなすか、その他の英語などの会話ができる言語を話す必要があったと思います。実際に、韓国語を教えてくださった先生は日本語が話せないため、英語で授業をしてくださいました。このようなことから、私たちが海外との交流を深めたり、意見を交換したりしたいときには自国語のみでなく、様々な言語が話せると有利であることがわかりました。特に英語は世界共通の言語として扱われているので、もっと英語を勉強し、すらすら話せるようになりたいと思いましたし、なっていくべきだとも思いました。

3）その他

私はこの短期研修に参加したことで、全羅南道庁の訪問、共生園への訪問、大学校生や先生との交流など、ただ韓国に観光しに行くときには体験できないことや出会えない人々と出会えてとても充実した日々を送ることができ、参加してよかったと思いました。この経験を生かして、また違う国に行って新しいことを学んでいきたいと思います。

4）研修先の写真

木浦大学校での集合写真

共生園での集合写真

2019 年度木浦大学短期研修報告書

185054　H.H.

1）活動概要

今回、高知県立大学と国際交流協定を締結している韓国木浦大学校への短期研修を2019 年 8 月 22 日木曜日から、同年 8 月 29 日木曜日までの 1 週間おこなった。参加学生は文化学部 2 回生が 3 人、社会福祉学部 2 回生が 1 人、文化学部 1 回生が 1 人、健康栄養学部 1 回生が 2 人の計 7 人での参加だった。その活動概要を 1 日ずつ報告したいと思う。

まず、1 日目の 8 月 22 日、私たちは朝の 6 時 30 分に高知龍馬空港に集合し、7 時 35 分羽田空港へと飛び立ち、12 時 05 分羽田国際線空港発の便で 14 時 25 分にソウル金浦空港に到着した。そこから空港鉄道に乗り継ぎ、龍山駅に向かい、KTX に乗り継いで 19 時 16 分に木浦に到着した。この日は 1 日中移動日だったが、参加者に知り合いが 1 人もいなかった私が参加者の学生とたくさん話す機会ができ、研修を始めていく前に仲を深めるとても大切な時間だった。木浦についたとき、現地案内のノさんと、木浦大学の学生の方が温かく迎えてくれた。夕食はチーズタッカルビを食べた。日本でも何度か食べたことはあったが、やはり現地の方が辛かったことが印象に残っている。

以上が 1 日目の活動報告である。

2 日目、朝 8 時に集合し、みんなで大学の近くのアーモンド食堂という場所に朝食を食べに行った。そのあと韓国での初めての授業を体験した。木浦大学のオ・チョンジン先生の講義は、基本英語で進行され、韓国語の仕組みから発音まで細かく丁寧に教えてもらった。韓国語を英語で習うことによって、英語聞き取り能力も同時に試すことができ、確実に身についたと思う。この日はハングルの文構成の仕組みや組み合わせ、母音の発音などを教わった。午後から全羅南道庁舎訪問に向かった。庁舎では全羅南道の歴史や街の移り変わり、「電柱がない」「看板がない」「垣根がない」の「3ない」など、木浦についてますます関心を持つようなお話をされた。庁舎には展望台や VR 体験ができる場所もあり、初めての体験をたくさんすることができた。全羅南道と高知県の友好のしるしとなっている梅の木についてもお話をしていただき、木浦と高知県の交友の歴史があることを改めて感じることができた。全羅南道庁舎訪問の後、ロッテマートで買い物の時間を作っていただき、お土産を探すことはもちろん、韓国語を活用する機会だった。買い物をするときに必要なコミュニケーションを、自分が知っている韓国語を使ってどれだけ話せるか考えて実践できる時間だった。夕食は全羅南道の市長さんのご厚意でカルビのお店に連れて行っていただき、通訳の方を交えながらだったが、たくさんお話をすることができた。

以上が 2 日目の活動報告である。

3 日目も 2 日目同様に朝ご飯を食べ、授業へと向かった。新しい単語を学んだり、

発音を重点的に教えてもらった。グループに分かれて授業をおこなっていて、各テーブルに韓国学生が 1 人ずつついていてくれた。韓国の学生はみんな日本語が上手で、授業でわからないことがあった時や、発音練習をするときなどたくさんのことを教えてくれたのでとても助かった。お昼休みは韓国で定番出前のジャン麺を食べた。そのあと大学近くのカフェにいき、みんなで楽しく会話をした。韓国の学生の授業の間の休みやお昼休みの時間の使い方を知ることができた。午後から最後の韓国語授業が行われた。午後からの授業ではパッチムといった少し複雑なハングルの勉強をした後、それぞれの名前が書かれた紙に 1 人に一言ずつメッセージを書きあう時間が設けられ、習ったハングルを使う機会にもなったし、お互いの中を深めることにもつながったと思う。授業が終わった後、オ先生から文字の書かれた紙袋がプレゼントされた。紙袋のプレゼントには、夢や希望が詰まっておりそれが叶うようにという意味が込められていると教えてもらい、とても感動した。授業の後は韓国学生に大学を案内してもらった。大学の敷地が広すぎてとても驚いた。そのあと夕食のチヂミを食べに行った。夕食に何かの虫の幼虫などが出てきて少し動揺したが、実際に韓国の食文化に触れられてとても楽しかった。そのあとみんなで韓国のカラオケに行った。日本とは違い、一曲 500 ウォンで歌えるというもので驚いた。日本の曲もたくさんあり、韓国の学生ともこの時にたくさん話すことができ、とても楽しい時間を過ごすことができた。

以上が 3 日目の活動報告である。

4 日目の午前中は韓国の伝統を学びに霊岩農業博物館を訪れた。そこでまず、韓国の伝統衣装の韓服の着用体験をおこなった。韓国の時代劇ドラマで見たことのある衣装を実際に着ることができ、とても楽しかった。役職ごとに衣装も異なり、様々なものを体験することができた。お昼には韓国伝統料理のトッカルビを作る体験をした。ハンバーグと少し似ており、とてもおいしく作ることができた。そのあとは資料館を見学し、韓国の昔の暮らし方などを学んだ。午後からは場所を移し、韓紙工芸とオランダお菓子作り体験をおこなった。韓紙工芸では、韓紙を使って手鏡をつくった。手鏡の模様は、伝統的な韓紙の模様であるということを教えてもらった。また、オランダというお菓子作りも体験し、初めて食べるお菓子だったが、とてもおいしかった。この日は木浦大学に戻り、夕食も各自でとることになった。私たちはカフェに行ったりカラオケに行ったりして木浦大学の周辺を探索した。

以上が 4 日目の活動報告である。

5 日目は朝ご飯も各自で食べることになっており、お昼の集合だった。お昼は木浦大学の学食を食べに行った。学食はバイキングのようなシステムで、ここでも日本との違いに驚いた。午後からはユダル山という場所を訪れた。ユダル山では豊臣秀吉が仕掛けた朝鮮戦争の時に、木浦を守った方法などを教えてもらい、日本の歴史の背景を韓国側で聞くことがとても新鮮だった。そのあとに共生園へ訪問した。私たちは事

前学習で共生園を守り続けてきた高知出身の田内千鶴子さんのことについて愛の黙示録という映画を鑑賞し、学んでいた場所だったので、実際に訪れることができとても嬉しかった。共生園の子どもたちに日本から持ってきたお菓子を手渡すと、とても喜んでくれた。その日の夕食では、この日合流した韓国学生ともたくさん話をすることができた時間だった。

以上が 5 日目の活動報告である。

6 日目の午前中は韓国の文化の特別講義を受講した。韓国と日本の政治と文化の講義で、自分が知らなかった政治の違いやネット文化の違い、キャッシュレスの定着率の違いなど、詳しく知ることができてとても面白かった。韓国で主流となっているウェブ漫画の webtoon というサイトを教えてもらい、韓国のウェブの流行などを知ることができた。午後からはタクシーで市街地に出てバラの道というお店が立ち並ぶ場所に行ってたくさん買い物をした。夕食は学生たちだけでチキンを食べに行き、学生間の交流をより深めることができた。韓国の大学の授業のことや日本の大学のこと、様々な違いなどをお互いに教えあって、とてもためになる話もたくさんすることができ、あと少ししか韓国にいることができないことをとてもさみしく思った。

以上が 6 日目の活動報告である。

７日目の朝、アーモンド食堂で最後の朝ご飯を食べた後、光州地域に向かい、国立アジア文化殿堂の見学をした。国立アジア文化殿堂には、韓国、日本を始め、アジアの各諸国に関する資料や文化、建築物、書庫、映像などが展示してあり、アジア全体の文化に触れることができた。東京五輪の新国立競技場の最初の設計案だった方の建築物の模型などもあり、たくさんのものを見て触れることができた。たくさんの文化人たちがアジアの歴史を形成し、私たちの時代にも影響を与えていることを感じることができた。そのあとは動物と触れ合える動物園のような場所に行き、普段見られない動物などを見たり、蛇を首に巻いたり、なかなかできない体験をすることができた。最後のお昼はみんなでカルビのお店に行って、たくさん話をする貴重な時間となった。午後からはチームに分かれて光州の街を散策することになった。私は VR 体験をしに行った。韓国ではカラオケ店のような感じの VR 体験ができるお店がたくさんあった。日本ではなかなかできない体験でとても楽しかった。光州にはお店がたくさんあり、韓国の学生にお店を教えてもらいながら堪能することができた。木浦に帰ってからの夕食の席で、みんなで研修のことを振り返りながら楽しく食事をした。最後の時間であることを感じるたび、寂しさが募ってきたが、韓国の学生の方々が日本に帰っても連絡を取るということや、また会う約束をしてとても嬉しかった。最後にみんなでお礼を述べ、記念写真を撮ってお世話になった韓国の学生と別れを告げた。たくさんのことをしてくれて、本当に感謝している。

以上が 7 日目の活動報告である。

８日目の朝は帰りの新幹線の時間のため、朝早くの集合だった。ノさんと韓国の学

生が朝早くにもかかわらずあいさつにきてくれて、メッセージを書いたお菓子をプレゼントしてくれた。最後にお礼を伝えることができ、とても嬉しかった。また韓国、そして木浦を必ず訪れたいと思った。ノさんたちに別れを告げ、木浦駅から龍山駅に向かい、ソウル金浦空港を 12 時 45 分に飛び立ち、15 時に羽田に到着し、18 時 55 分羽田発の飛行機に乗り 20 時 15 分に高知龍馬空港に到着し、無事全員で 2019 年度韓国木浦大学短期研修の全プログラムを終了することができた。

以上が 8 日目、全日程の活動報告である。

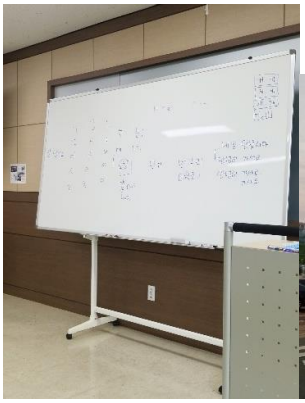
2）研修での学び・気づき

研修を通して学んだことは実際に韓国を訪れないとわからなかった日本との違いや韓国の伝統があるということである。私はもともと韓国に興味があり様々な文化や言語、韓国の流行について日本にいるときにも自分で調べたりしていた。そこで知る情報で日本と比較することがたくさんあった。しかし、実際韓国に行き、韓国の学生などに話を聞くと、韓国では K-POP よりも日本の曲がはやっていることや、ニュース報道など、日本で報道されているものと違いがあったりして日本にいるときにはわからなかったことがたくさんあるということを知り、情報の正確さなど、きちんと精査する必要があることを学んだ。また、韓国でも高齢化の問題や、虐待の増加で親とは一緒に暮らすことができない子供たちがたくさんいるということを知り、日本の福祉事情と似ていることがたくさんあることが分かり、韓国の取り組みと日本の福祉を比較することができ、とても勉強になった。

3）その他

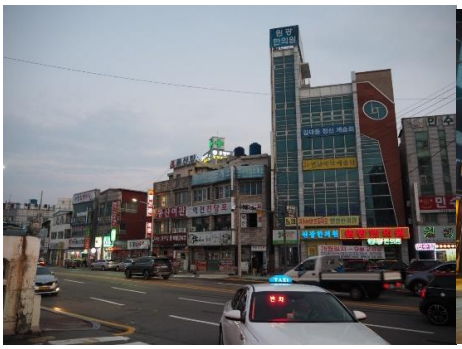
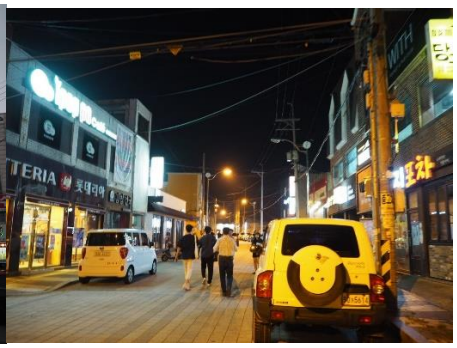
今回の研修ではたくさんの方々にお世話になった。韓国木浦大学の学生や教員の方々はもちろん、訪問先の方々にもお世話になった。また、引率してくださった橋尾先生をはじめ国際交流課の方々、そして研修を共にした高知県立大学の学生にとても感謝している。本当に短い間でしたがありがとうございました。この短期研修で学んだことを今後の自分の生活に生かしていきたいと思う。

4）研修先の写真



쌀박물관

참이슬

MNU



어서오십시오

LOTTE Mart
LOTTE OUTLETS

목 포 대 학 교
A구역
B구역
C구역

엄마김밥

The Street of Roses

253

令和元年度木浦大学短期研修報告書

183092 M.H.

1）活動概要

1 日目 8 月 22 日の 7 時 35 分高知龍馬空港を飛び立ち、12 時 5 分に羽田空港からの便で 14 時 25 分ソウル金浦空港に着きました。金浦空港から空港鉄道 A-REX に乗り換えて龍山駅まで行き、KTX に乗り換えて木浦駅に 19 時 16 分に着きました。木浦駅には木浦大学のノチャンソン先生がミニバスで出迎えてくれました。ミニバスに乗って大学近くの食堂でチーズダッカルビを食べました。チーズダッカルビは日本で食べるものとは比べものにならないくらい辛くて、食べるのに苦労しました。晩御飯を食べた後、初めて韓国のコンビニに行きました。店員さんが平気でケータイを触っていることやお会計した商品は袋には入れてくれないなど日本との文化の違いを感じました。その後はゲストハウスに行き、木浦研修 1 日目を終えました。

2 日目 8 月 23 日は 8 時に大学を出てすぐの食堂で朝食を取りました。これからはこの食堂で毎朝朝食を食べることになりました。朝食のメニューは毎日自分で決めることができ、私は味噌チゲを食べました。午前中はオチョンジン先生の韓国語の授業を受けました。韓国語は研修に行く前に少し勉強していきましたが、実際の韓国人の先生の話す言葉は全く分かりませんでした。授業では韓国語のハングルについて勉強しました。スタッフの方がそばにいてくださり、分からないことがあったらすぐに聞くことができたので、気軽に授業を受けることができました。お昼ご飯は木浦大学の国際交流課長や他のチューターの学生と一緒にサムギョプサルを食べに行きました。日本で食べたサムギョプサルよりお肉が分厚くて食べ応えがあったので、すぐにお腹がいっぱいになりました。チューターの学生の方に冷麺とサムギョプサルのお肉を一緒に食べると美味しいと教えていただいたので、実際に食べてみると冷麺の少し酸っぱい味付けと合っていてとても美味しかったです。午後からは全羅南道庁舎という日本でいう県庁のようなところへ行きました。そこで、高知と木浦との繋がりのお話や尾崎知事のお話を聞きました。その後に尾崎知事が贈った梅の木の下で写真を撮りました。その後、ロッテマートに行って買い物をしました。晩御飯は午後に訪問した道庁の方と一緒に焼肉を食べに行きました。焼肉以外にも料理がたくさん出たので、とても食べ切れそうではありませんでした。スタッフの学生に韓国では食事を残すことは失礼な行為になるかと質問したら、飲食店では食べ切れないほど料理が出されることが多く、残すこと自体は失礼な行為ではないが、残しすぎるとその処理にかかる費用としてお金が取られると教えてくれました。

3 日目 8 月 24 日は一日中韓国語の講義でした。2 日目はハングルの勉強でしたが、3 日目は単語や挨拶などのフレーズの勉強をしました。一日中韓国語の勉強ということで大変だと思ったのですが、実際に自分の自己紹介を韓国語で紙に書いて皆でコメントを書き合ったりして工夫された授業だったので、つらくありませんでした。お昼ご飯は韓国の宅配文

化を体験するということで、学校に宅配してもらって中華料理を食べました。授業後、スタッフの方々にキャンパスツアーをしてもらいました。キャンパスは県立大学とは比べ物にならないくらい広く、学部の数も沢山ありました。晩御飯はお店でチヂミを食べました。やかんに入れて器に入れて飲む本格的なマッコリも初めて飲みました。その後、韓国のカラオケに連れて行ってもらいました。韓国のカラオケは日本のように時間で料金が決まっているのではなく、曲数で料金が変わっていたので日本のカラオケとの違いを感じました。

4 日目 8 月 25 日は霊岩農業博物館に行き、韓服体験とトクカルビ料理体験をしました。韓流ドラマでよく見る衣装を着て写真をたくさん撮りました。その後にお昼ご飯も兼ねてトクカルビ体験をしました。トクカルビとは王様が骨つきのカルビをそのまま食べるのは品が無いため、たたいてだんごのようにしてつくったハンバーグのようなものです。でも実際につくってみると作り方はハンバーグにそっくりですが、味はハンバーグとは少し違いました。その後は博物館に行き、韓国の昔使っていた民具などを見ました。次にバスで喜文化創作空間に行き、韓紙工芸を体験しました。韓紙で手鏡とオランダとライスクッキーを作りました。韓紙でつくった手鏡はとてもあたたかみがあって自分で作ったので愛着も湧きました。オランダやライスクッキーは日本でいうせんべいのような昔から韓国で愛されているお菓子です。

5 日目 8 月 26 日は朝食を食べた後は部屋で自由に過ごし、お昼ご飯は皆んなで大学の学食を食べました。県立大学のように好きなメニューを選ぶのではなく、バイキング形式で決まったものを好きな分だけ取って食べるという形式でした。その後、スタッフの方に韓国のカフェに連れて行ってもらいました。韓国人は食後必ずコーヒーを飲む人が多いため、大学の近くにはカフェがたくさんあるらしいです。その後、バスに乗り木浦柳達山、近代歴史博物館、共生園を訪問しました。ガイドさんの説明を聞きながらユダルサンや日本領事館を訪問し、木浦の歴史と文化について学びました。その後、愛の黙示録でも見た共生園を訪問しました。そこで、田内千鶴子さんの生涯についての映像を見た後、共生園の子供達と触れ合いました。

6 日目 8 月 27 日は午前中にパクチャンギ先生の韓国文化特別講義を受けました。日本と韓国の国交問題から日本の大衆文化が禁止された歴史や現在の韓国の大衆文化である WEBTOON についてのお話を聞きました。その後は商店街に行き、買い物をしました。ピンスという韓国のかき氷を食べたり、韓国のコスメや洋服を買いました。晩御飯にはチキンを食べて、スタッフの方々と居酒屋に行きました。そこで、韓国の学生さんのお酒の楽しみ方を教えてもらいました。

7 日目 8 月 28 日は光州地域の国立アジア文化殿堂に行きました。国立アジア文化殿堂はアジアの文化を研究し資料を収集する場所で韓国だけでなく日本の文化についての資料もありました。お昼ご飯に焼肉を食べた後は松亭駅市場文化体験ということで小動物カフェ

に行ったり、韓国の古着屋に行ったりしました。スタッフの方にいいお店を教えていただいたので、いい買い物ができました。
8 日目 8 月 29 日は朝早くからミニバスに乗り木浦駅まで送ってもらい、7 時 13 分発の龍山着の A-REX に乗り、乗り換えて金浦国際空港駅に 9 時 46 分に着きました。12 時 45 分から 15 時に羽田空港着の飛行機に乗り、羽田空港から 20 時 15 分に高知龍馬空港に着く飛行機で高知に戻ってきました。

2）研修での学び・気づき
今回の研修で木浦の歴史、文化についてフィールドワークや特別講義を通して学ぶことができました。実際に韓国に行き韓国の方と交流することでお互いの文化の違いを直接感じることができ、お互いの文化を認め合うようになりました。現在、日韓関係は悪化している一方ですが、お互いの異なる部分を理解しようとする姿勢だけでも改善に繋がるのではないかというように感じました。

3）その他
今回のスケジュールを計画してくださった先生方やサポートしてくださった学生の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

4）写真
トクカルビ体験でつくったトクカルビ　韓紙体験でつくった手鏡